

山口県におけるキュウシュウナミコギセル *Taaphaedusa subaculus* (Pilsbry, 1902) の生息分布

増野和幸

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

Distribution of *Taaphaedusa subaculus* (Pilsbry, 1902) in Yamaguchi Prefecture, Japan

Kazuyuki MASHINO

The Firefly Museum of Toyota Town, Nakamura 50-3, Toyota, Shimonoseki, Yamaguchi Pref., 750-0441 Japan

Abstract : *Taaphaedusa subaculus* (Family Clausiliidae) lives throughout Kyushu district, Japan. The land shell is considered a non-native species in Yamaguchi Prefecture. *T. subaculus* has been recorded at 31 locations in eight cities and one town in Yamaguchi Pref.

キーワード : キセルガイ類, キュウシュウナミコギセル, ナミコギセル, 山口県

Key words : clausiliid land snail, *Taaphaedusa subaculus*, *Taaphaedusa tan*, Yamaguchi Prefecture

はじめに

筆者は、九州地方に生息しているとされる(東, 1995; 湊, 1988) キュウシュウナミコギセル *Taaphaedusa subaculus* (Pilsbry, 1902) の山口県における生息状況を調査したのでその結果を報告する。調査は2012年から2025年まで実施した。採集個体は解剖により他のキセルガイ類ではないことを確認した。

キュウシュウナミコギセル *T. subaculus* は、Pilsbry によって1902年、タイプ産地を長崎 (Nagasaki) として記載された (Pilsbry, 1902)。分布は九州6県とされており (環境省, 2002)、県によっては絶滅危惧種に指定されている所もある (大分県, 2022; 長崎県, 2022)。また、近縁で別種 (Wang & Ueshima, 2017) とされるナミコギセル *T. tau* (Boettger, 1877) は、Boettger によって1877年、タイプ産地を京都 (Kyoto) として記載された (湊, 1988)。分布は関東から近畿、中国東部および四国東部とされる (野生生物調査協会・環境保全事務所, 2025; 環境省, 2002)。

キュウシュウナミコギセルの形態的特徴

キュウシュウナミコギセルは殻径約3.5 mm、殻高約4.1 mm とやや小形で細長い紡錘形をし、殻色は黄褐色。殻口はわずかに広い洋梨形。上板の発達は弱く不明瞭。上腔襞は斜位で月状襞に続き、下腔襞は短い (湊, 1994)。生息環境は平地の草むらや林床の落葉下、比較的群生することが多い。人里や人家周辺など市街地でも見られる。生体の軟体部は暗褐色。外観は一見してキセルガイ類のスグヒダギセル *Zaphyx strictaluna* (Boettger, 1877) に似ている。この点に関してはキュウシュウナミコギセルの陰茎鞘内部の襞模様がスグヒダギセルとは異なる点を指標とした。近縁のナミコギセルと本種との殻形態、軟体部の識別は、主に文献 (Pilsbry,

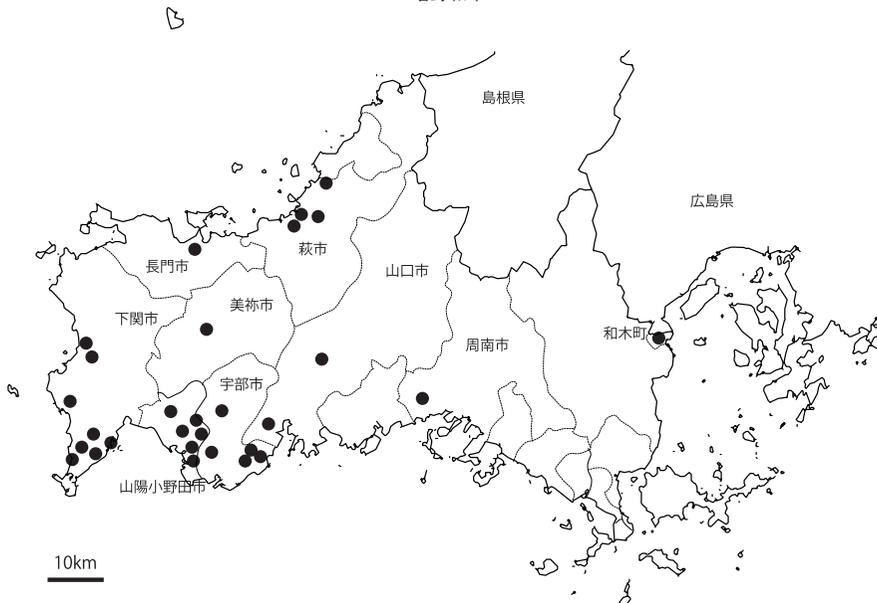


図1. 山口県におけるキュウシュウナミコギセルの生息分布 ●: 記録地

1902; 湊, 1994) を基にするとともに、殻口内の腔壁や殻側面の壁、特に「殻口の上板がキュウシュウナミコギセルの方が弱い」ことをポイントにした。また、山口県は地理的に関門海峡を挟んで九州に近いという点も考慮した。なお、キセルガイ類の識別に有効とされる陰茎鞘内部の内壁の比較において、「本種とナミコギセルとの間に識別し得るほどの差異はない」との指摘を得ている（宮崎晋介氏・石川裕氏からの私信、2025年12月10日）。

山口県内の生息分布

筆者は2012年からキセルガイ類の一種・スグヒダギセル *Z. strictaluna* の生息調査を実施してきた。その過程で殻形態の類似したキュウシュウナミコギセル様の個体を県内各地で観察した。生息は本種単独に、または他種と混生していた。このことは過去数十年、陸産貝類調査の中で気が付かなかったことである。あらためて意識的な観察をすると、予想以上に広域に生息していることが明らかになった。

図1に示したように県内31ヶ所で記録した。なお、過去の記録として今回の記録以外に、山口県立山口博物館所蔵の河本コレクションの中に“下関市一の宮住吉・住吉神社”（県博 No. 325）での記録がある。このサンプルに付されたラベルに拠ると、採集は河本卓介氏（1900～1968）によるもので、採集日の記載はなかった。実見した結果、記録のあった標本は殻形態の特徴から下関地域に生息するスグヒダギセルであると判断した（県立山口博物館、2026年1月16日）。筆者の初記録は今から13年前の2012年で、山陽小野田市での採集である。

県内産地31ヶ所の詳細は表1に示したが、萩市、長門市、下関市、美祢市、山陽小野田市、宇部市、山口市、周南市、和木町の9市・町であった。各産地の生息環境は神社・寺院、海水浴場、沿道、住宅地など人の出入りの多い場所や市街地などが主であった。この点から人の移動や物流に伴って移入し、その生息が拡大したことが推察される。本来は九州地方に生息する個体が、山口県内に移入したものと推察される。

中国地方西部の分布

環境省動物分布調査報告書（2002）によると、関東・近畿地方に主に分布するナミコギセルは、中国地

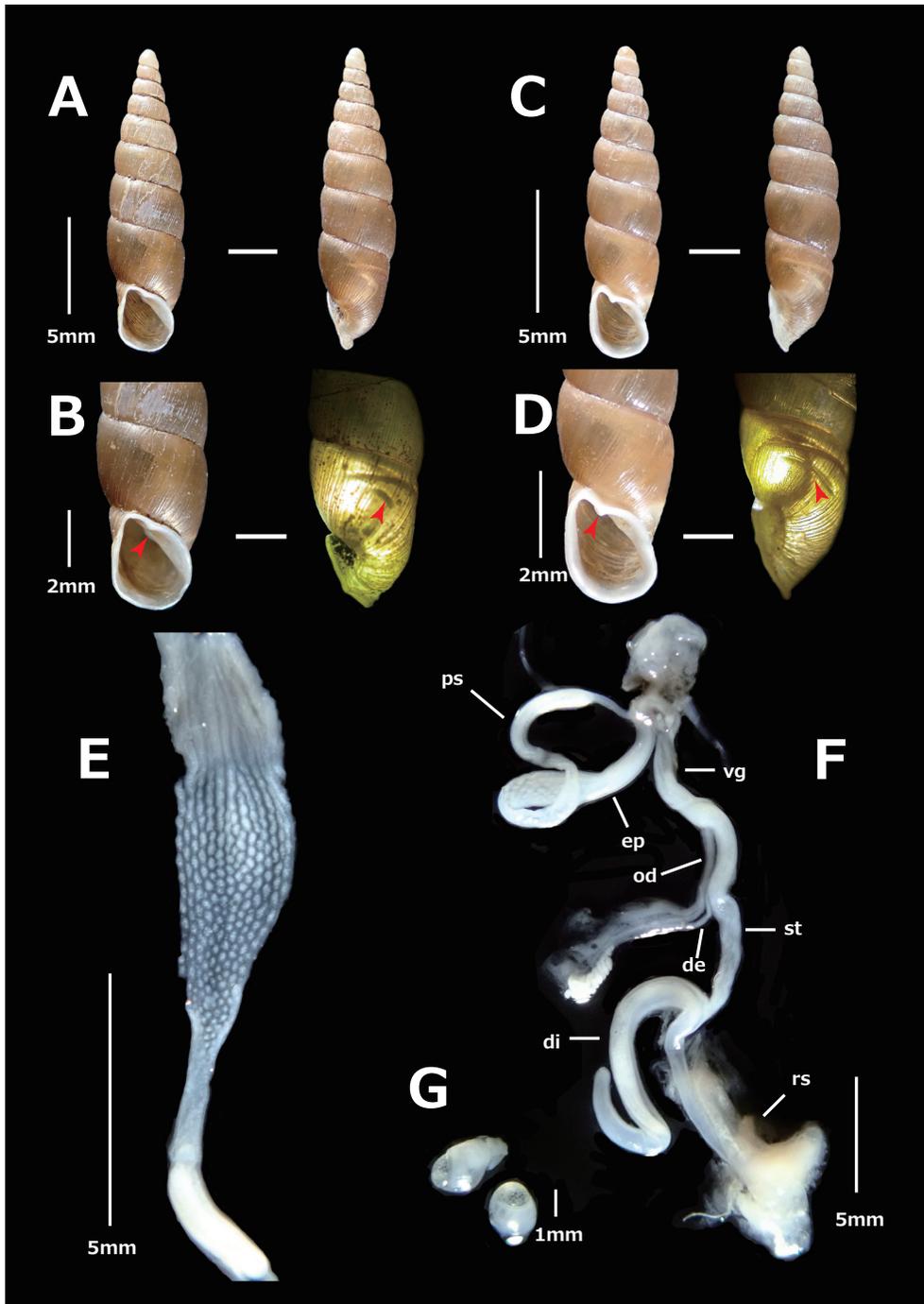


図2. A: キュウシュウナミコギセルの殻 (美祢市大嶺町産) B: キュウシュウナミコギセルの殻口周縁に観察される主襞・上腔襞 (美祢市大嶺町産) C: ナミコギセル (京都市西京区華嚴寺付近産、石川 裕氏採集) D: ナミコギセルの殻口周縁に観察される主襞・上腔襞 (京都市西京区産) E: 生殖器・陰茎鞘内壁の襞模様 (宇部市船木岡崎八幡宮産) F: キュウシュウナミコギセルの生殖器 (宇部市船木岡崎八幡宮産) G: キュウシュウナミコギセルの抱卵 (宇部市船木岡崎八幡宮産) .

表1. キュウシュナミコギセルの採集記録 2025. 11. 17時点

No.	市町名	字名ほか	コード	採集期日	採集者	備考	
1	萩市	椿・椿八幡宮	5131-43-61	2020.6.25	増野		
2		椿東・松陰神社	5131-43-93	2021.6.4	増野		
			5131-43-93	2025.1.18	増野		
3		土原・弘法寺	5131-43-92	2025.1.18	増野		
4	大井馬場・荒人神社	5131-53-66	2025.3.27	増野			
		5131-53-66	2025.4.8	増野			
5	美祢市	東分中村人家周辺畑	5131-21-06	2019.6.10	増野		
			5131-21-06	2019.7.25	増野		
			5131-21-06	2024.11.19	増野		
6	長門市	東深川・飯山八幡宮	5131-41-35	2019.5.7	増野		
7	山陽小野田市	大浜刈屋竜王山	5031-71-43	2012.6.12	増野		
			5031-71-43	2025.2.2	増野		
8		厚狭・鴨八幡宮	5131-01-64	2019.5.1	増野		
			5131-01-64	2025.2.19	増野		
9		厚狭出合・山川神社	5131-01-72	2019.5.3	増野・宮崎晋介		
			5131-01-72	2019.7.22	増野		
10		西高泊・高泊神社	5031-71-93	2019.5.3	増野		
11		田の尻・大浜神社跡	5031-71-43	2025.2.2	増野		
12		有帆・別府八幡宮	5131-01-16	2025.2.15	増野		
13		竜王山東麓・赤壽神社	5031-71-44	2025.3.6	増野		
14			豊浦町小串丸山（墓地付近）	5130-27-14	2019.5.8	増野	
				5130-27-14	2018.8.22	増野	
15			豊浦町小串小田後海水浴場付近	5130-27-14	2018.8.22	増野	
16	下関市	長府三軒屋	5030-77-89	2016.12.5	松田真紀子		
			5030-77-89	2017.2.6	増野		
			5030-77-89	2017.7.26	増野		
17		豊浦町川棚	5130-17-74	2014.8.26	川野敬介		
18		幡生宮の下町 生野神社	5030-77-74	2020.6.24	増野		
19		みもすそ川町・火の山山麓付近	5030-77-66	2022.7.5	増野		
20		金比羅町・金比羅宮	5030-77-53	2019.8.1	松田真紀子		
			5030-77-53	2022.5.27	増野		
			5030-77-53	2022.6.24	増野		
21		金比羅町・金比羅公園	5030-77-53	2022.6.24	増野		
22		吉見永田本町・永田神社	5130-07-81	2022.4.27	増野		
23	周南市	戸田	5131-05-85	2020.7.27	西村綾子		
24	宇部市	上宇部南側	5031-72-62	2019.6.8	増野		
25		岡の辻（常盤湖東岸）	5031-72-43	2020.9.12	増野		
26		開（常盤湖北岸）	5031-72-52	2020.9.18	増野		
27		東須恵黒石・松江八幡宮	5031-71-76	2019.5.3	増野		
			5031-71-76	2025.2.2	増野		
28		船木・岡崎八幡宮	5131-01-58	2018.10.8	増野		
			5131-01-58	2019.5.1	増野		
	5131-01-58		2024.12.24	増野			
	5131-01-58		2025.3.6	増野			
29	和木町	和木	5132-21-48	2019.6.4	村本貞子		
30	山口市	阿知須河内・北方八幡宮	5131-02-27	2021.5.17	増野		
			5131-02-27	2025.1.10	増野		
31		大歳高畑・大歳神社	5131-13-75	2025.1.30	増野		

方東部の鳥取・岡山の両県に生息している。一方、中国地方西部の島根・広島・山口の3県では、ナミコギセル、キュウシュウナミコギセルともに記録が空白になっていた。近年、島根県内ではキュウシュウナミコギセルが出雲市（佐々木隆志氏私信, 2025年11月3日, 増野剖検; 増野・川野・松田, 2022）記録されている。また、鳥取県に隣接する安来市からはナミコギセルの記録（河邊訓氏採集, 矢野重文氏私信, 2025年12月26日）がある。広島県内ではキュウシュウナミコギセルが県東部の三原市（丸山優子氏採集, 矢野重文氏私信, 2025年12月26日）で記録されている。

キュウシュウナミコギセルの生息拡大

キュウシュウナミコギセルは雌雄同体で卵胎生であり、土砂の移動や園芸・鑑賞植物等の植栽により比較的容易に個体の移動が起こると考えられる。近年、福岡県内でも本種の拡大が著しいとのことである（宮崎晋介氏私信, 2025年12月9日）。例えば福岡県レッドデータブックにおいて、2007年作成時点：絶滅危惧Ⅱ類から、2014年改訂時点：準絶滅危惧、そして今回、2024年改訂では除外扱い、となっているように生息拡大が進行し、区分段階の変更があったことを示している（福岡県, 2014）。また、縄文貝塚などの遺跡からも、本種が九州北部からの持ち込みによる可能性のあったことが指摘されている（黒住, 2021）。このことから本種に限らず陸産貝類の移入が、古い時代から頻繁に起こっていたと考えられる。キュウシュウナミコギセルの山口県内への移入・分布拡大も、ごく最近に生じた一例と考えることができる。山口県内の状況から推察すると、今後、県東部への生息拡大が予想される。また、調査が進めば更なる生息地が記録される可能性がある。

なお、今回の種の同定は殻形態のみによって行ったが、種内には殻形態においてサイズなど形質に幅のある変異のあることが普通である。種の同定には各形質を参考にしながら、最終的には遺伝子分析による検討が必要と考える。

おわりに

今回調査をまとめるにあたり多くの方々からサンプルや資料、記録等の提供を受けました。また、懇切丁寧なご助言もいただきました。記してお礼を申し上げます。石川 裕氏, 上島 励氏, 川野敬介氏, 佐々木隆志氏, 西村綾子氏, 松田真紀子氏, 宮崎晋介氏, 村本貞子氏, 大森鑑能氏, 矢野重文氏。（50音順）

参考文献

- 東 正雄（1995）原色日本陸産貝類図鑑（増補改訂版）, xvi+343 pp.+80 pls. 保育社, 大阪.
- 福岡県（2024）福岡県の希少野生生物—福岡県レッドデータブック 2024—. 福岡県環境部自然環境課.
https://biodiversity.pref.fukuoka.lg.jp/files/download/freepage_document_blocks/05f6fcff2-89e7-4d68-8ffd-26b43fc6cc61/value01/value02.pdf.
- 環境省自然環境局生物多様性センター（2002）生物多様性調査 動物分布調査報告書（上）（陸産及び淡水産貝類）2分冊の1. 654 pp.
- 黒住耐二（2021）轟貝塚から得られた貝類遺体（pp. 290–305）. In 轟貝塚：平成23～30年度市内遺跡発掘調査事業に伴う発掘調査報告書, 488 pp., 熊本県宇土市教育委員会.
- 増野和幸・川野敬介・松田真紀子（2022）島根県西部を主とした無脊椎動物. ホンザキグリーン財団研究報告, 25: 127–155.

湊 宏 (1988) 日本陸産貝類総目録 . 294 pp., 同刊行会, 白浜 .

湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究 . *Venus*, Supplement 2; 212 pp. +6 tables. +74 pls.

Wang, W. & Ueshima, R. (2017) Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoological Journal of the Linnean Society*, **181**: 795–845.

長崎県 (2022) 長崎県レッドリスト 2022 II 貝類 . 長崎県自然環境課 . <https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2022/03/1648644059.pdf>.

大分県 (2022) レッドデータブックおおいた 2022 ~ 大分県の絶滅のおそれのある野生生物 ~ . 大分県自然保護推進室 . <https://www.rdb-oita.jp>.

Pilsbry, H. A. (1902) Additions to the Japanese land snail fauna VI. *Proceeding of The Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, **54**: 517–533, pls., 27–28.

山口県 (2019) レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物 . 山口県自然保護課 . <https://yamaguchi-rdb.com/site/index.php>.

野生生物調査協会・Envision 環境保全事務所 (2025) 日本のレッドデータ検索システムーキュウシュウナミコギセルー . <https://jpnrdp.com/database/species/detail/7345/?s=キュウシュウナミコギセル> .